

世界遺産アカデミー認定講師 File No.49

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第49回目は、調布FMのラジオ番組「パーソナリティ」としても活躍されている、東京都在住のWHA認定講師、秋田 英光 さんです。不動産業を営むかたわら、当WHA正会員としても、多方面でご活動されています。今回は、そんな秋田さんに、人生との交差点とも言える世界遺産のエピソードについて、語っていただきました。

——転換点から着地点、 ご縁を与えてくれる世界遺産

世界遺産と出逢ったきっかけという、日本が世界遺産条約締結国となる前のことが思い出されます。中学生だった1981年、当時はまだ世界遺産に登録されていなかった「奈良公園」に、学校行事の「奈良遠足」で訪れました。興福寺、東大寺、春日大社などを周りました。それが世界遺産に最初に触れた体験です。私は名古屋出身なのですが、浄土宗系の学校に通っていたので、仏教系の文化財に触れる機会が多くありました。奈良を中心に、古刹、仏閣、神社を巡り、建築はもちろん彫刻、美術などにもたいへん魅了されました。隋や唐の影響を受けた平安初期時代までの、法隆寺や唐招提寺、薬師寺、東大



アンコール・ワット「中央祠堂」

寺といった仏教建築物、仏像や彫刻の仏教美術……。とりわけ、飛鳥、天平、弘仁・貞観文化です。その後、仕事の国内出張が多かったのも、結果的には日本各地の世界遺産を巡ることができました。訪れていた場所がだんだんと世界遺産となり、時の流れを実感しました。

世界遺産検定をある時点で知って、まずは2級から受検しました。世界遺産検定のために世界遺産を学んだというよりも、それ以前から世界遺産には興味があって色々調べていたもので、体系的に学び直したわけですね。長年勤めていた証券会社を卒業し不動産業界に独立転身したのも、少年時代からの建築好き、文化財好き、そして、世界遺産好きが交わったのだと思います。証券会社時代、信託銀行の設立を任された時、上司の勧めで宅地建物取引士の資格を取得したのです。その時は資格を取得しただけでなく、不動産業務との直接の関わりは無かったのですが、それが後々活かされてきて、現在に繋がっています。自分の過去を振り返ってみると、日本が世界遺産条約締結国となったことが、何よりも大きいと思います。1992年は社会人3年目。転換点とも言うべき年です。もうひとつ、大学は文系学部への進学を望んでいましたので、日本史と世界史を選択していました。ところが、文化史や美術史に関しては、どうしても後回しにされてしまう。インターネットも無かった時代ですし、建物の名

前と造られた年を覚えるだけの、単調なものでした。社会人になってから、この、学生時代の学び残しを痛感しました。そのことが世界遺産検定を学んでいく過程で補完されて、歴史や文化への関心がより深まっていきました。自分の興味と関心、学び直しの必要性が、まさに世界遺産検定の内容と重なっていたのです。就職のことを考えて法学部に進みましたが、本当は人文科学系の方が好きです（苦笑）。結婚生活のスタートも、世界遺産とのご縁がありました。新婚旅行でオーストラリアを訪れた時、グレート・バリア・リーフやシドニーのオペラハウスに感動しました。『グレート・バリア・リーフ』の世界遺産登録は1981年ですが、『シドニーのオペラハウス』は2007年です。オペラハウスは世界遺産にまだ登録される前でしたが、これは貴重なものだ。後にそれが世界遺産となり、腑に落ちたものです。

——人生の交わりの中で

独立起業するにあたり、ビジネス系のパーソナル・コーチングを受けました。その時のコーチが言うには、「数値的な業績目標だけでは、必ず息切れしてしまう。その業績を上げることによって、あなたはいつか何をしたいのか」と。その課題を突き付けられて、僕はそんなに物欲はないし、どうしようかと戸惑ってしまったのですが、家内と一緒に世界中の世界遺産を見に行きたい、と答えを見つけることができました。

これまで訪れた世界遺産は、『アンコールの遺跡群』、インドネシアのパリ島（水利システム「スバック」）、ベトナムの「古都ホイアン」、『フエの歴史的建造物群』、『ミーンソン聖域』、そして、ニューヨーク出張時の『自由の女神像』などです。国内ですと、京都、奈良、厳島神社。『舌鳥・古市古墳群』にも登録前に訪れたことがあります。つまり、ヨーロッパにはあまり行ったことがないのです。証券会社時代、ヨーロッパ担当としてロンドンやルクセンブルグに派遣された人もいますが、英語力を買われて、ニューヨーク出張が多かったのです。その反動でしょうか。注目しているのは、ヨーロッパの世界遺産、特に美術館です。ルーヴル美術館、ロンドン・ナショナル・ギャラリー、テート美術館、ヴァチカンのシスティーナ礼拝堂。東京は、幸いにして、世界の美術館の展示が巡回されています。東京国立博物館でも素晴らしい展示がなされていますね。また、巡礼路にも関心がありまして、スペインとフランスの「サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路」は訪れたいと思っています。ユネスコ本部がパリに在って、世界遺産運動が広がっていった変遷に興味があるのです。日本ですと、奈良は奈良県、京都府、と一緒くたにされていますが、ヨーロッパは街ごとに、教区ごとに、細かいエリアで指定されています。教会建築をじっくりと味わい、その教会を中心とした歴史的・文化的な経緯を、自分の目で見てみたいのです。



グランド・キャニオン「エンジェル・ポイント」

——世界遺産活動を広げるために

世界遺産を学び、学生時代に学びもれていたところ、深みが足りなかったところを、体系的に学び直すことができました。WHA認定講師となった今、そういった知識を発表する場、他の方々にもお伝えする場を持てるようになりました。ただ、訪れたことのない外部情報だけの世界遺産を説明する際は、どうしても迫力が足りません。これからの講師活動のためにも、ヨーロッパだけでなく世界各地の世界遺産を巡りたいですね。

そして、世界遺産の講演を聴きたい方たち、団体を増やす活動をしていきたい。WHAや認定講師の皆さんと歩調を合わせながら、自治体や企業、ボランティア活動も含めて様々な講師活動を行い、活性化させていきたいと思っています。

現在、調布FMでラジオ番組「HIDEGLORY®の温故知新」のパーソナリティをしています。番組の中で、世界遺産はもちろん、空き家再生プロジェクト、世界の絵画と歴史、日本の古刹・神社仏閣、1638年「ウィーン包囲」を発端とする競争馬の血統などについて、取り上げています。世界遺産の講義は、『すべてがわかる世界遺産大事典』に準拠した内容です。ぜひバックナンバーをご視聴いただけたら、幸いです。



ラジオ番組「HIDEGLORY®の温故知新」
調布FM (83.8MHz)
毎週水曜日21:30～22:00、絶賛放送中!!
<https://www.chofu-fm.com/>